

SHOW-HHEYシネマルーム

★★★

クレイジーホース・パリ 夜の宝石たち

2011年・フランス、アメリカ映画
配給/ショウゲート・134分

2012(平成24)年8月11日鑑賞

シネ・リーブル梅田

Data

監督・音響・編集：フレデリック・ワイズマン

演出・振付：フィリップ・ドゥクフレ

美術監督：アリ・マフダビ

スタイリスト：フィフィ・シャシュニル

総支配人：アンドレ・ダイセンバグ

出演：クレイジーホースダンサー

👁️👁️ みどころ

あなたは「三大ナイトショー」と呼ばれる、パリのキャバレー「クレイジー・ホース」のヌードショーを知ってる？『パリ・オペラ座のすべて』（09年）に続くフレデリック・ワイズマン監督のドキュメンタリー性は面白いが、さてその興奮度は？

また、芸術とエロとの境界は難しいが、このヌードショーについてあなたはどちらに軍配を？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□パリの「三大ナイトショー」とは？■□

パリのオペラ座は、世界的なミュージカル『オペラ座の怪人』や映画『オペラ座の怪人』（04年）『シネマルーム7』156頁参照）で有名。またカンカン踊りで有名なパリの「ムーラン・ルージュ」は、ニコール・キッドマンが主演した映画『ムーラン・ルージュ』（01年）『シネマルーム1』17頁参照）で一層有名になった。しかし、あなたはパリのキャバレー「クレイジー・ホース」を知ってる？パリには三大ナイトショーがあるそうだ。それは第1に「ムーラン・ルージュ」のカンカン踊り、第2にキャバレー「リド」のショーだが、第3は？それが「クレイジー・ホース」のショーらしい。

『パリ・オペラ座のすべて』（09年）をドキュメントで撮ったフレデリック・ワイズマン（『シネマルーム24』207頁参照）が次に選んだのが、「クレイジー・ホース」でのドキュメント撮影だが、さてそのスクリーン上に映るダンサー達の美しさは・・・？

■□芸術とエロの境界線は？■□

日活ロマンポルノ1つを考えても、芸術とエロとの境界線は難しい。したがって大阪にも

数カ所あるストリップ劇場でのストリップショーと、パリの「クレイジー・ホース」でのストリップショー（？）の、一方がエロで一方が芸術と決めつけるのは難しい。そんなことを論じ始めればいくらでも議論が広がっていくのでここでは一切書かないが、本作をきちんと評論するためには本当はそれが不可欠。

「クレイジー・ホース」のショーは当然エロではなく芸術だが、ヌードショー、ストリップショーといわれるそこでのショーは女性の胸とお尻を強調したものが多いため、本来のストリップショー（？）との境界はなおさら難しいのでは・・・。

■□■本作の採点は？■□■

『キネマ旬報 7月下旬号』では本作について、品田雄吉、筒井武文、三浦哲哉の三氏が評論し、それぞれ星3つ、5つ、5つと採点しているが、なんせ短い評論なのでその真意はわかりにくい。その中で、私が納得できたのは星3つしかつけなかった品田氏の「ダンサーたちのパフォーマンスが整っていて、いい意味での不健康(?)な感じが乏しい」であり、逆に同意できなかったのは、星5つをつけた三浦氏の「無人島に一本もっていく映画はこれにしたい」だった。「クレイジー・ホース」のショーは照明の使い方に大きな特徴があり、影絵のようなステージは確かに美しいが、あまりに人工的な感じも……。しかして私も本作は星3つだが、さてあなたは？

2012（平成24）年8月15日記